

[様式2]

提案書	
技術分野	⑥地下水等の挙動把握
提案件名	単孔式地下水位および線量モニタリングシステム
提案者	清水建設株式会社
<p>1. 技術等の概要（特徴、仕様、性能、保有者など）</p> <p>現状では地下水のサンプリングを実施し、サンプリングされた地下水の放射能濃度を分析する方法を採用しており、濃度の分析に時間が掛かるなど、効率が良くない。</p> <p>そこで地下水位と放射能濃度（全β、全γ）を同時に計測できる装置を開発し、敷地内に配置されたモニタリング孔（ここでは、1地点1深度の計測を対象とする）に設置し、時系列的なデータを測定するシステムを提案する。</p> <p>この手法により、観測点での放射能濃度を毎日測定するのではなく、相対データとして計測し、時系列データの異常値があった場合にサンプリングを行うことにより、モニタリングおよび分析の効率が良くなると考えられる。</p> <p>モニタリングされたデータは、敷地内のデータベースとして集約し、対外公表データとして整理することにより、透明性を増すことができる。</p> <p>なお、データベースからのデータの可視化や公開方法については、別途システムを構築する必要がある。</p>	
<p>図 地下水位・線量モニタリング観測井の構造イメージ</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む） 水中式の放射線量測定装置は開発されているようであるが、詳細は不明。 開発・実用化に向けた課題・留意点 観測井内での地下水の上下方向流動により、汚染水の分布が不明確になる可能性があるため、1つの測定点で1深度を対象とした観測孔（ボーリング孔）を掘削する必要があるとともに、測定深度以外の観測孔のシーリングを十分に実施する必要がある。 その他（特許等を保有している場合の参照情報等） 	